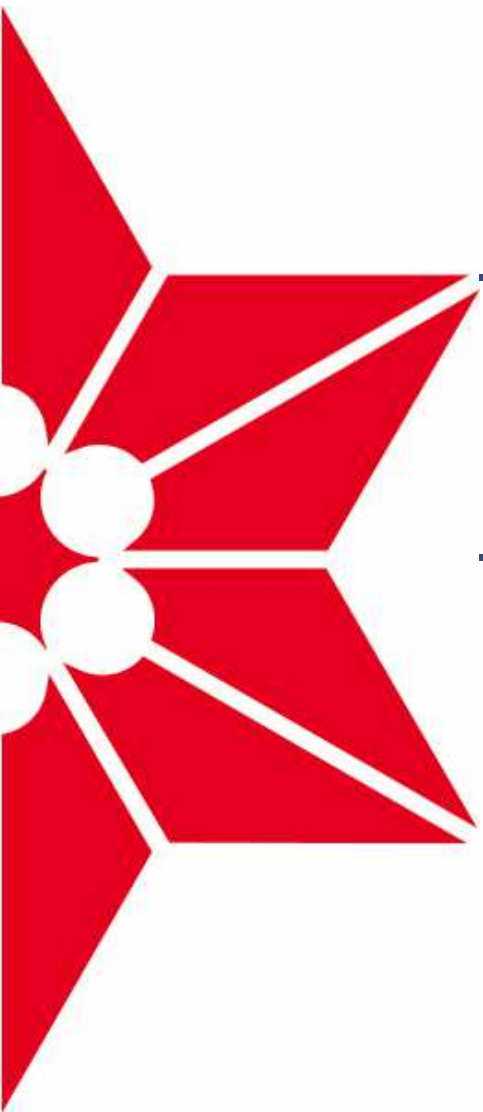




2023年3月期 決算説明会

東京製綱株式会社

May, 15, 2023

1. 23年3月期決算・24年3月期予想概要
2. セグメント情報
3. 中期経営計画の進捗

1. 23年3月期決算・24年3月期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

1-1. 2023年3月期 決算数値概要

	22年3月期		23年3月期		前年同期比	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	増減比(%)
売上高	63,780	—	67,135	—	+3,355	+5.3%
営業利益	1,621	2.5%	3,305	4.9%	+1,684	+103.9%
経常利益	2,021	3.2%	3,653	5.4%	+1,632	+80.7%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	1,306	2.0%	3,783	5.6%	+2,477	+189.5%
D/Eレシオ	0.98		0.83		0.15ポイント改善	
配当額	20円/株		35円/株		増配(+15円/株)	

1-2. 2023年3月期 PLのポイント

開発製品の売上増、価格転嫁、為替効果により増収、および営業利益倍増

売上高	<u>671億円</u> (前期比+5.3%)	- 開発製品関連(特に、海外防災・CFCC)の影響大。 - 諸資材価格上昇に応じた価格転嫁、および円安による販売単価増(対前期+14億円)により増収。
営業利益	<u>33億円</u> (前期比+103.9%)	<u>倍増</u>。海外防災・CFCC事業での売上増加、価格転嫁による利益率改善が寄与。 - 円安による為替影響(対前期+3億円)も寄与。
経常利益	<u>36億円</u> (前期比+80.7%)	営業利益との差額約3億円は、営業外に計上された為替差益約2億円の影響が大きい。
親会社株主に帰属する 当期純利益	<u>37億円</u> (前期比+189.5%)	- 前期比約2.9倍に急回復。22年3月期は特損があったが、改善した影響(約13億円)が大きい。 - 経常との比較では税効果影響(約3億円)が大きい。

1-3. 2023年3月期 BSのポイント

好業績により財務体質改善(D/Eレシオ:0.83)、自己資本の有効活用は今後も検討

(単位:百万円)	前期末 (22年3月末)	当期末 (23年3月末)	摘要
有利子負債	25,221	25,614	概ね横ばい。
自己資本	25,502	31,042	当期純利益(37億円)に加え、円安による海外投資先の為替換算の変動も増加に寄与。
D/Eレシオ	0.98	0.83	期間利益の積上げにより、改善が継続。

1-4. 2023年3月期 CFのポイント

当期純利益増加により、投資・財務CFの増加を吸収して現預金残高は高水準を維持

(単位:百万円)	前年同期 (22年3月期)	当期 (23年3月期)	摘要
営業CF	1,915	3,126	当期純利益増に伴い大幅改善。
投資CF	▲1,503	▲1,693	更新投資を中心に投資実施。
フリーCF	412	1,433	投資の微増を吸収して改善。
財務CF	▲2,289	▲405	自己株式の取得(2.1億円)含む。
その他	216	277	外貨建て現預金の換算差。
期末残高	4,425	5,730	余剰分は圧縮・有効活用を検討。

1-5. 2024年3月期 予想

開発製品関連の販売拡大等により増収。売上・利益とも、23年3月期中計目標到達。
当期純利益は税効果の影響により23年3月期比減も、本業の収益は拡大を見込む。

	23年3月期(実績)		24年3月期(予想)		前年同期比	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	増減比(%)
売上高	67,135	—	68,000	—	+865	+1.3%
営業利益	3,305	4.9%	3,600	5.3%	+295	+8.9%
経常利益	3,653	5.4%	3,700	5.4%	+47	+1.3%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	3,783	5.6%	2,700	4.0%	▲1,083	▲28.6%
(参考)為替レート	期末:133円/USD (海外子会社は決算期12月)		想定:130円/USD		—	

1-6. 2024年3月期末 配当方針

- 24年3月期の配当は、前述の業績予想を前提に、一株当たり40円を予定しております。

	23年3月期実績	24年3月期(予想)
配当(年度当たり)	35円/株	40円/株
配当性向(連結)	14.9%	23.8%
(参考)総還元性向(連結)	20.6%	—

海外情勢や各相場の急激な変動等、引き続き不透明な状況が続いており、今後の業績によっては見直しとなる場合がございます。

1. 23年3月期決算・24年3月期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

2-1. セグメント別売上高と営業利益(前年同期比較)

(単位:百万円)	22年3月期(実績)		23年3月期(実績)		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線関連事業	25,202	1,167	27,156	2,005	+1,954	+838
スチールコード 関連事業	8,605	▲827	9,341	▲849	+736	▲22
開発製品関連事業	18,943	215	19,173	1,289	+230	+1,074
産業機械関連事業	4,252	460	4,055	352	▲197	▲108
エネルギー不動産 関連事業	6,776	605	7,408	507	+632	▲98
合計	63,780	1,621	67,135	3,305	+3,355	+1,684

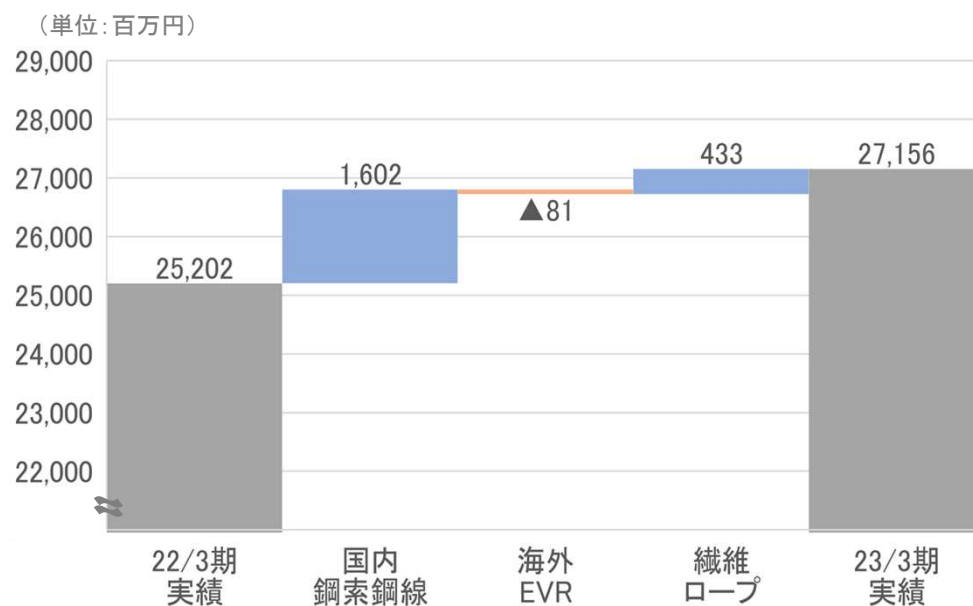
2-1. セグメント別売上高と営業利益(実績と予想の比較)

(単位:百万円)	23年3月期(実績)		24年3月期(予想)		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線関連事業	27,156	2,005	27,500	1,400	+344	▲605
スチールコード 関連事業	9,341	▲849	7,300	▲300	▲2,041	+549
開発製品関連事業	19,173	1,289	21,450	1,650	+2,277	+361
産業機械関連事業	4,055	352	4,250	400	+195	+48
エネルギー不動産 関連事業	7,408	507	7,500	450	+92	▲57
合計	67,135	3,305	68,000	3,600	+865	+295

2-2. 鋼索鋼線関連事業概況(売上高)

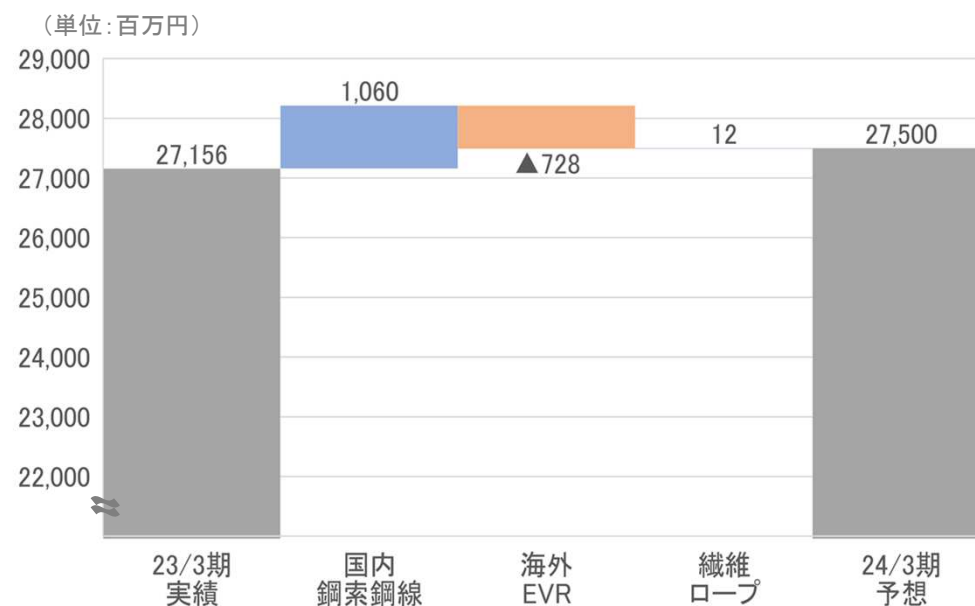
実績

- 国内鋼索鋼線は、エネルギー・諸資材価格高騰の転嫁により増収。
- 繊維ロープは、付加価値の高い陸上・海洋関連の高機能製品の売上により増収。



予想

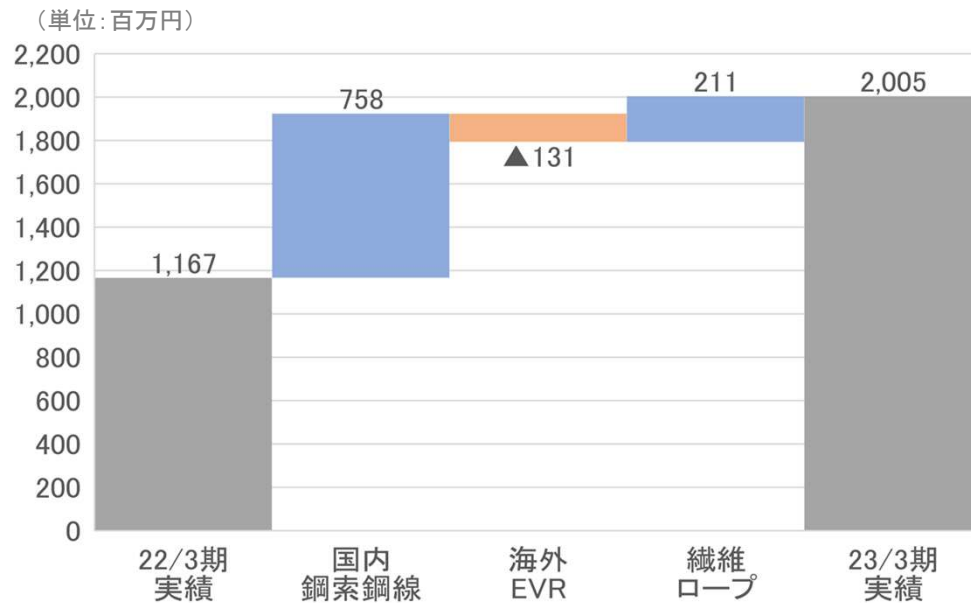
- 国内鋼索鋼線は、前期実施の価格転嫁が通期寄与し増収を見込む。
- 海外EVRは、海外の景気動向を踏まえ受注減を想定。



2-2. 鋼索鋼線関連事業概況(営業利益)

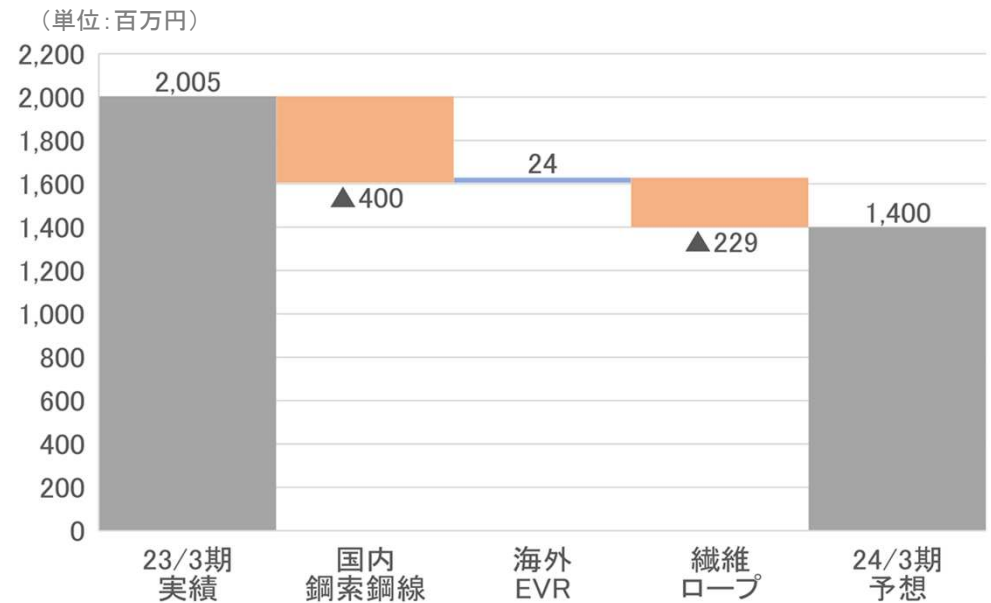
実績

- 国内鋼索鋼線は、価格転嫁が寄与し、マージンが回復。
- 繊維ロープは、高付加価値品の販売が寄与。



予想

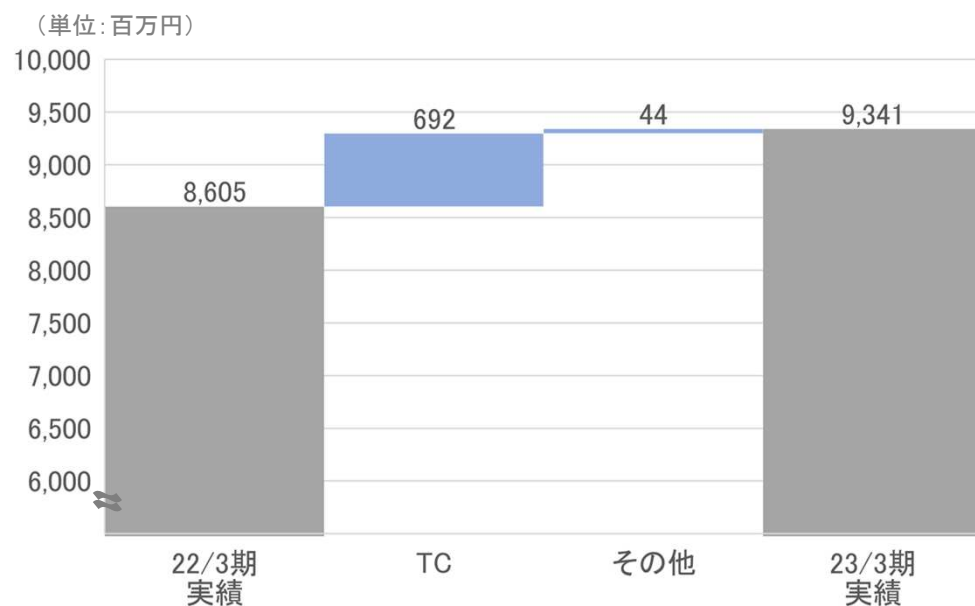
- 国内鋼索鋼線は、電力費用等の増加および販売ミックスの影響により減益を見込む。
- 繊維ロープは、高付加価値品の剥落を見込む。



2-3. スチールコード関連事業概況(売上高)

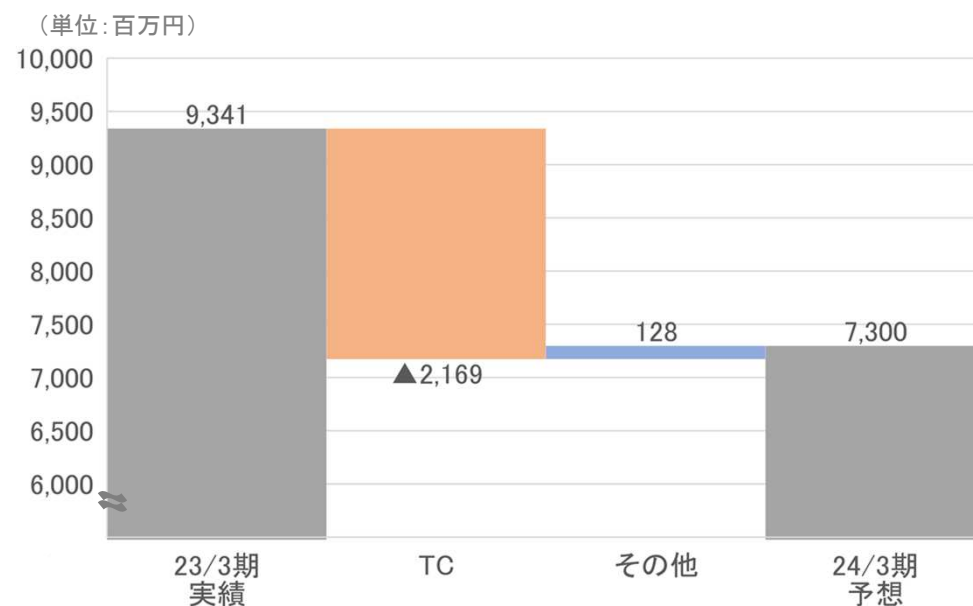
実績

- 諸資材価格上昇等に応じた価格転嫁、為替影響により増収。



予想

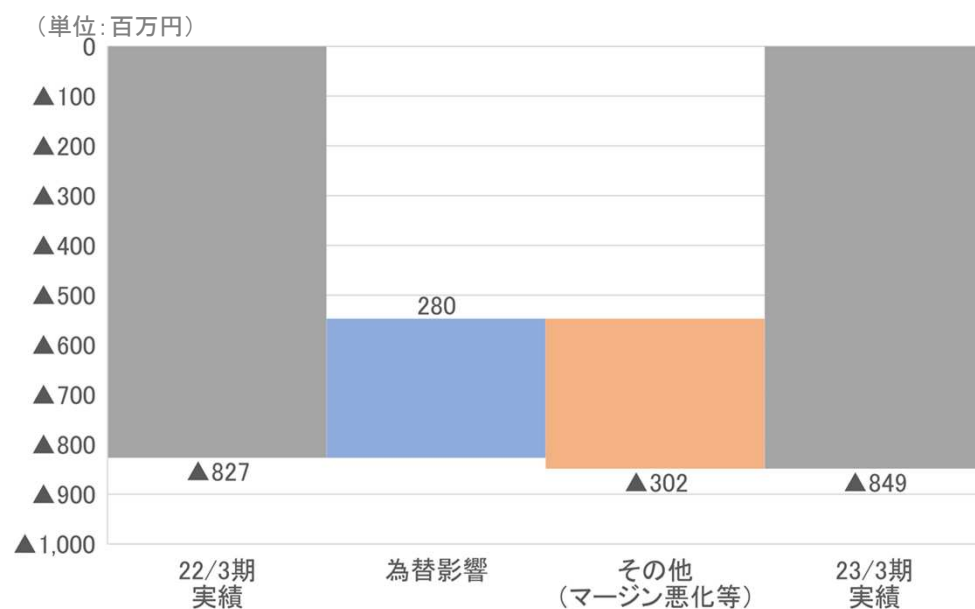
- 北米の景気減速等の影響を受け受注減を見込む。



2-3. スチールコード関連事業概況(営業利益)

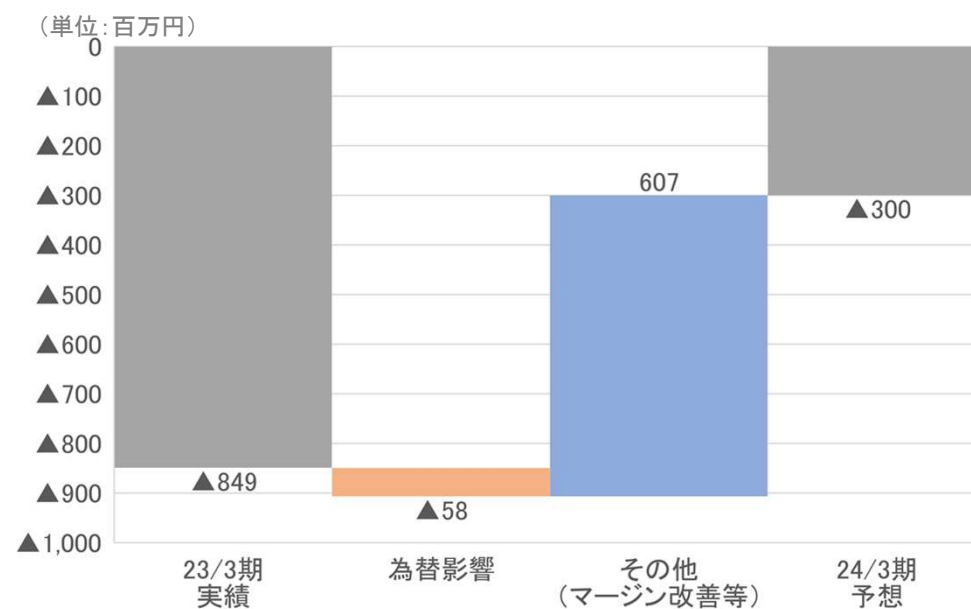
実績

- ・ 円安により外貨建て輸出分の利益率改善。
- ・ エネルギー・諸資材価格上昇等に伴う値上げを実施も、更なるエネルギー価格上昇分を補えず。



予想

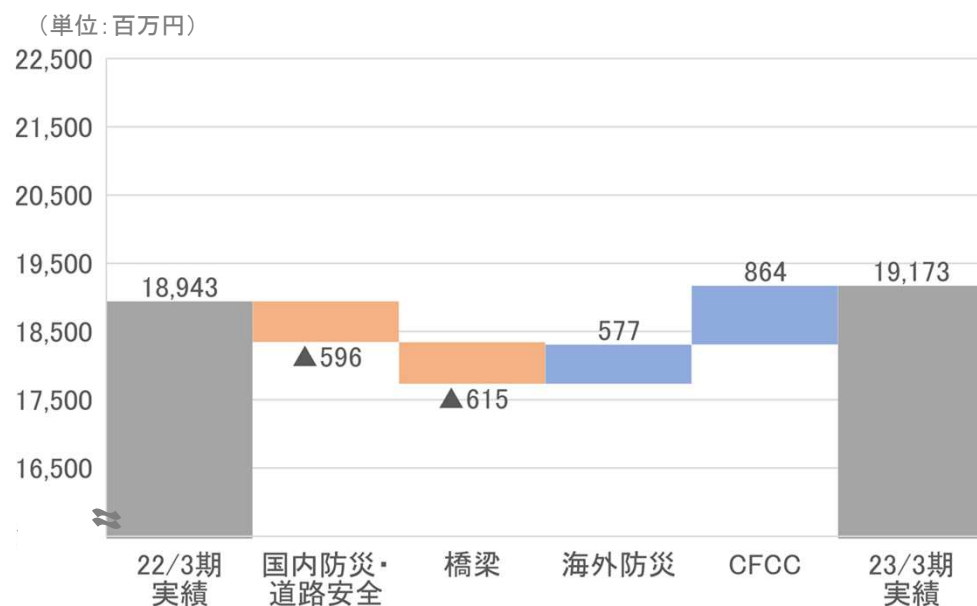
- ・ 中計未達の予想も、エネルギー価格高騰の転嫁を進め利益率の改善を継続する。
- ・ 過年度投入設備の本格稼働等のコスト低減策で、来期黒字化へ向けた布石を打つ。



2-4. 開発製品関連事業概況(売上高)

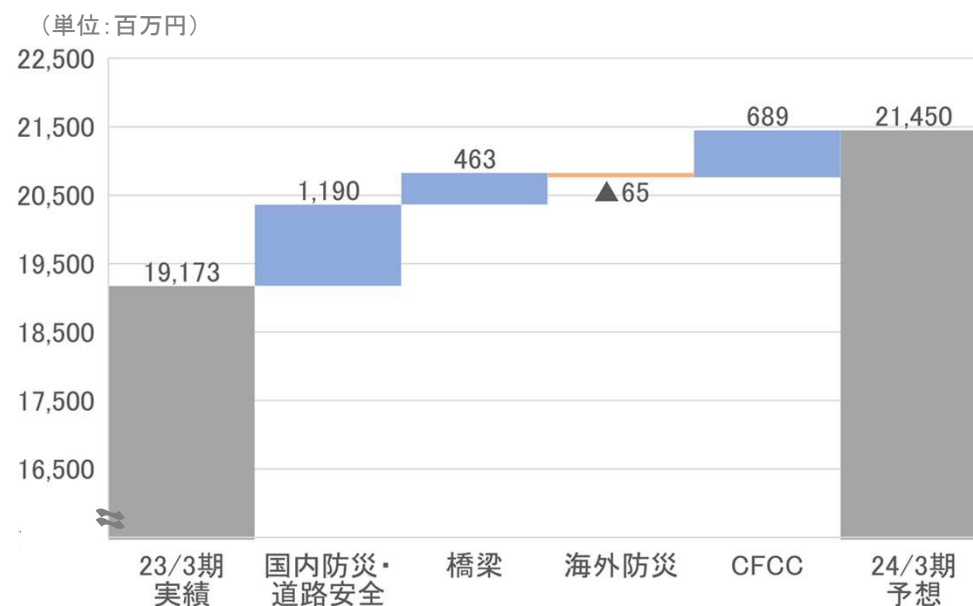
実績

- 海外防災は大型案件の獲得、CFCCは、米国の大型案件等の売上が通期寄与。
- 橋梁は大型案件の終息に伴い減収。



予想

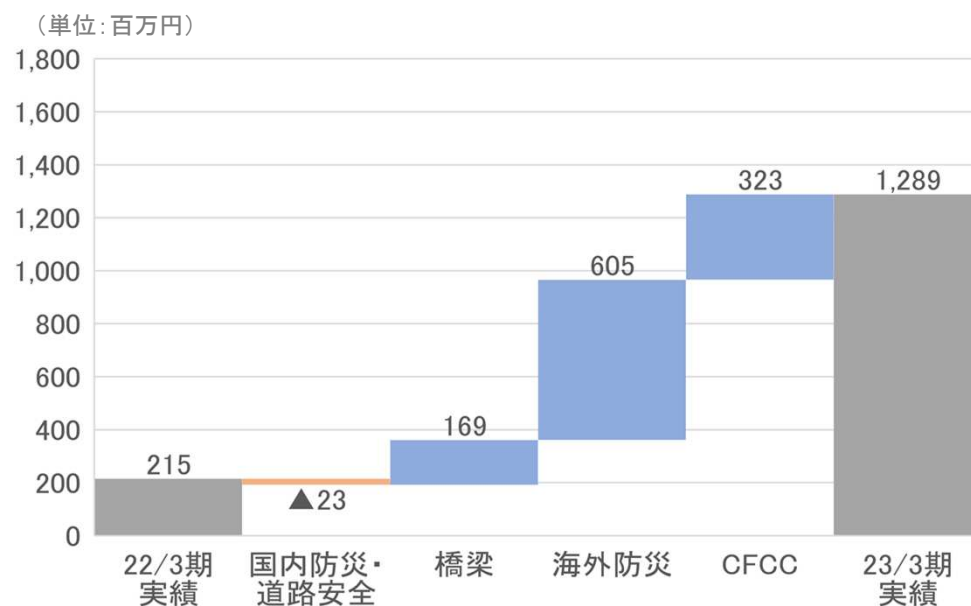
- CFCCは、米国大型案件の継続に加え新規案件受注により増収を見込む。
- 国内防災は、諸資材価格転嫁により増収。



2-4. 開発製品関連事業概況(営業利益)

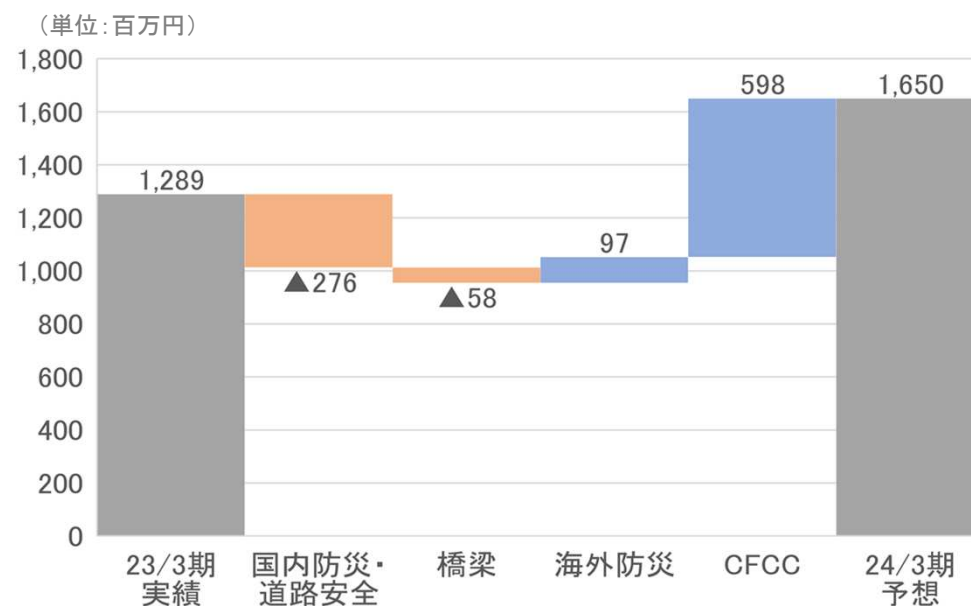
実績

- 海外防災は、売上の増加に加え、22年3月期は一過性の在庫評価減の影響あり。
- CFCCは、売上増加により増益。



予想

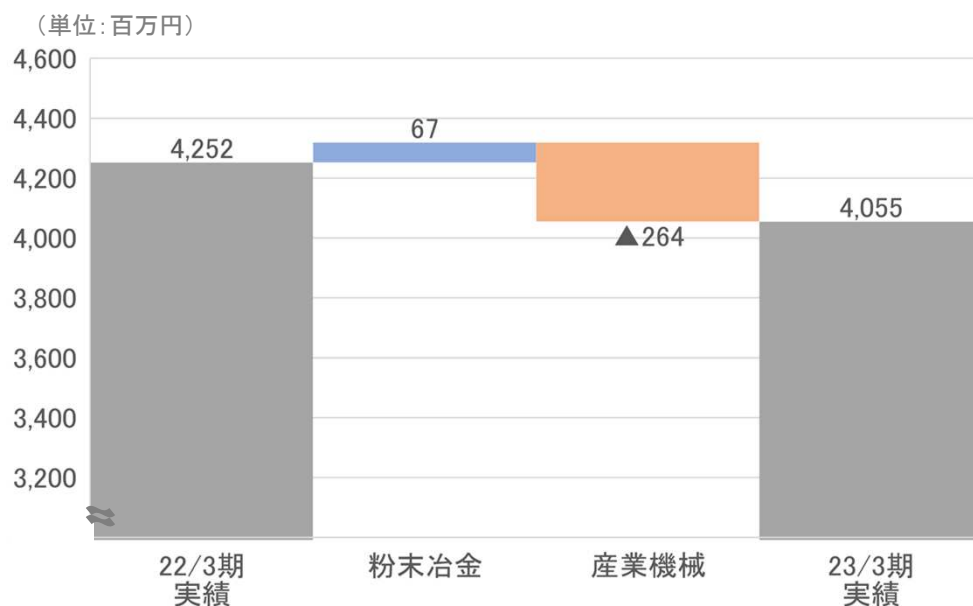
- CFCCは、増収および工場稼働率の良化により増益。
- 国内防災は、販売ミックスの影響により減益を見込む。



2-5. 産業機械関連事業概況(売上高)

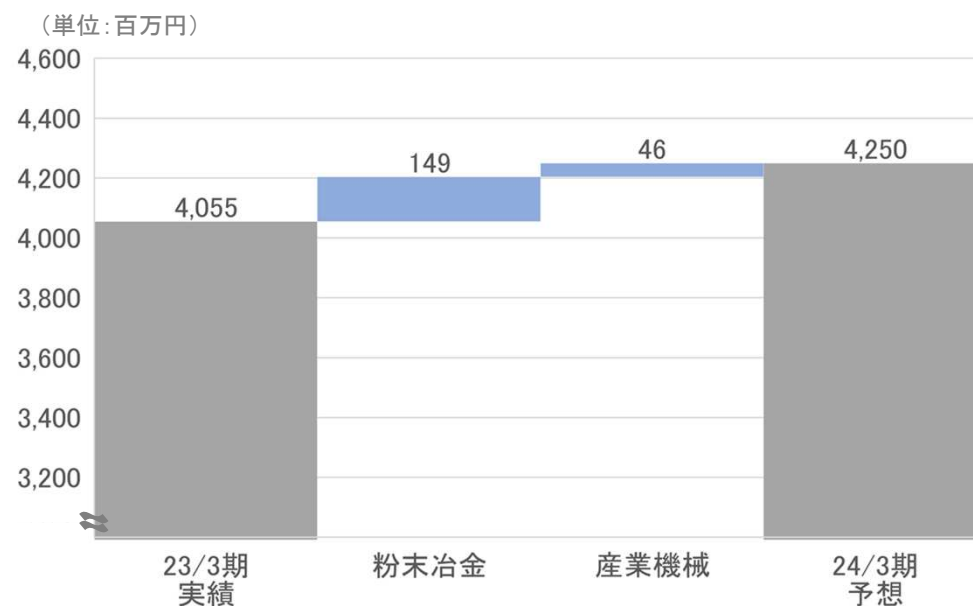
実績

- 産業機械では、メンテナンスは増加も、半導体等の部品調達遅れにより、機械販売は減少した。



予想

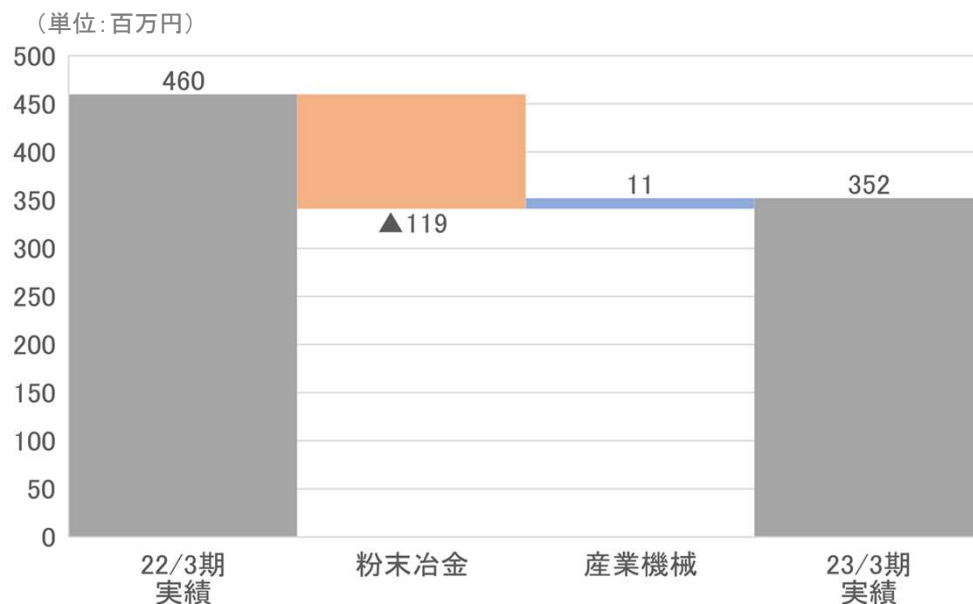
- 粉末冶金は、新分野の開拓と製品値上げの効果発現を見込む。
- 産業機械は、半導体等の部品調達遅れの継続により前期比横ばいを見込む。



2-5. 産業機械関連事業概況(営業利益)

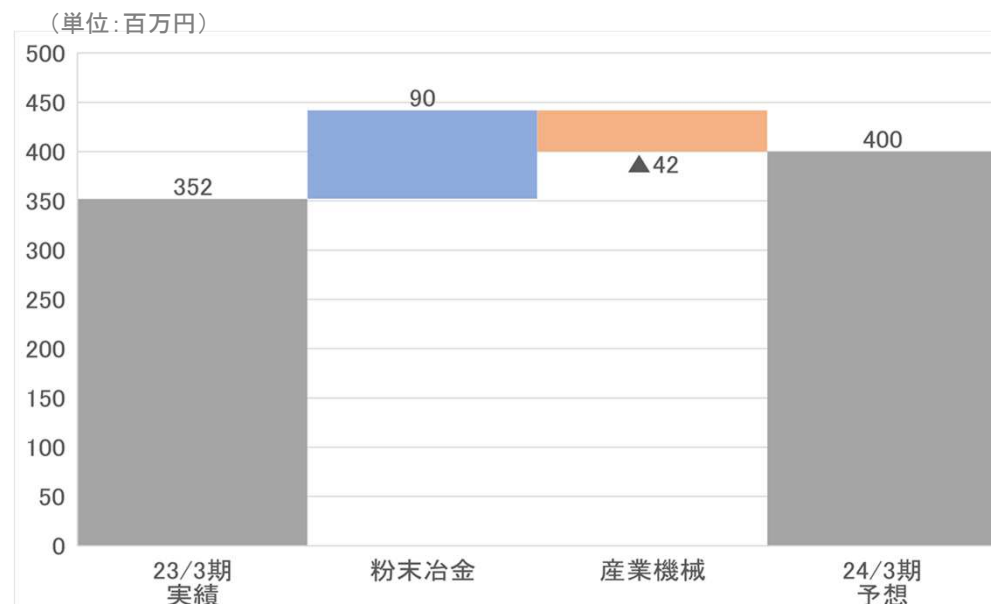
実績

- 粉末冶金は、原料諸資材や電力等の価格高騰により、減益。



予想

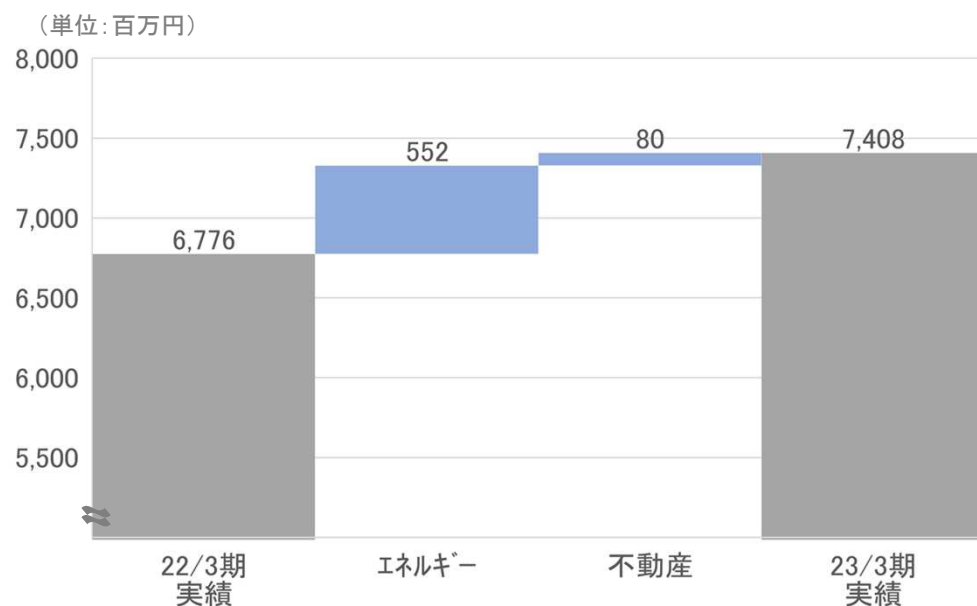
- 粉末冶金は、新製品開拓および製品値上げの効果により収益改善を見込む。
- 産業機械は、各部品の納期長期化の継続と価格高騰により減益を見込む。



2-6. エネルギー・不動産関連事業概況(売上高)

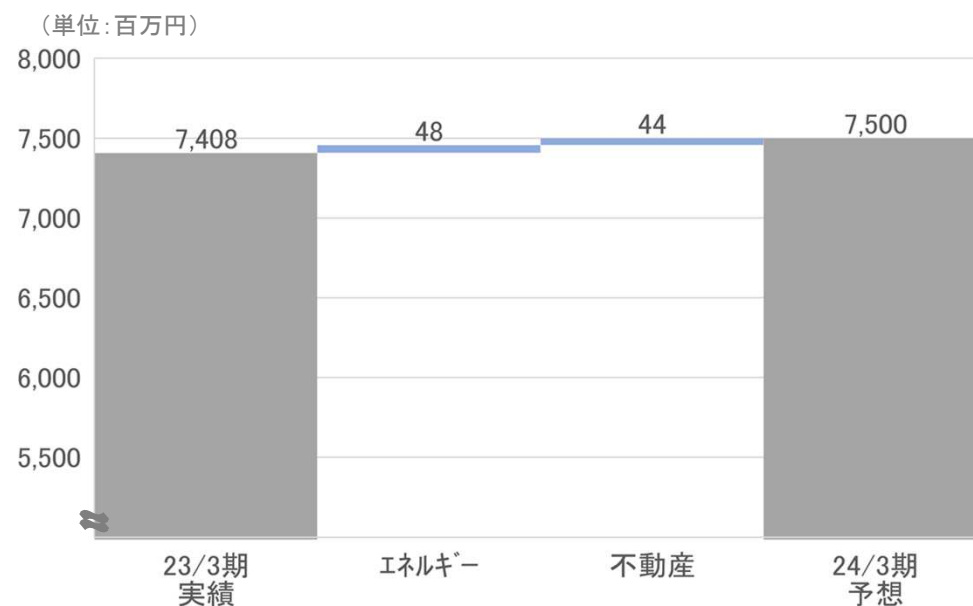
実績

- エネルギー事業では、原油価格上昇による石油・ガスの販売単価増により大幅増収。



予想

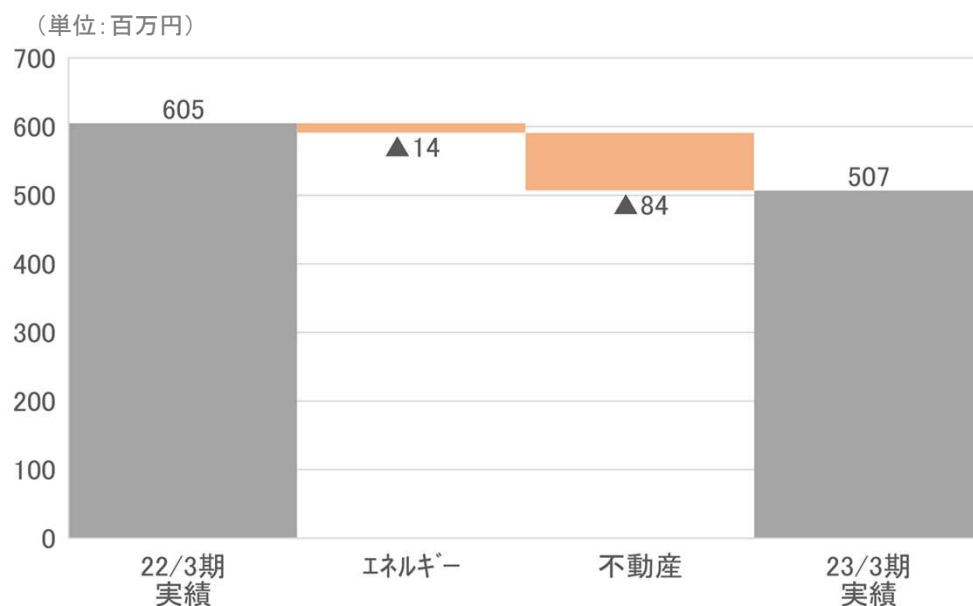
- 概ね前期横ばいを見込む。



2-6. エネルギー・不動産関連事業概況（営業利益）

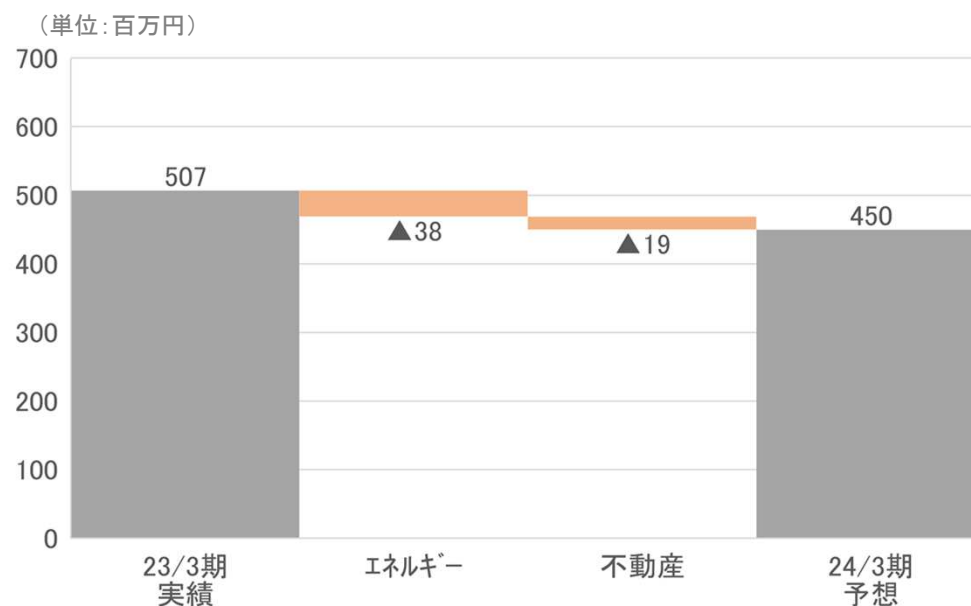
実績

- ・ エネルギー事業は、運送費および修繕費の増加により減益。
- ・ 不動産事業は、商業施設の修繕・改装費用および電力コストの増加により減益。



予想

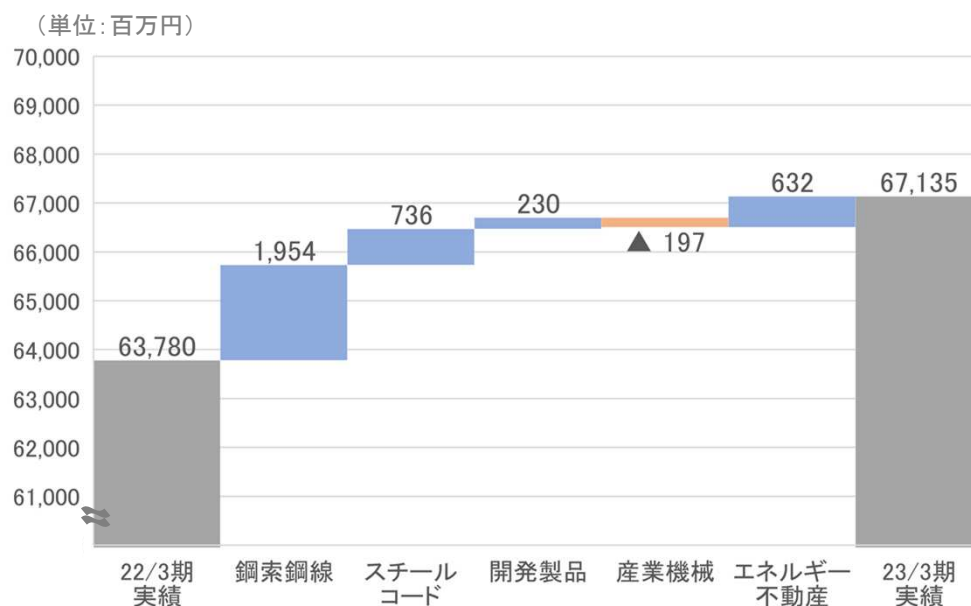
- ・ エネルギー事業は、運送費および償却費の増加により減益を見込む。
- ・ 不動産事業は、商業施設の電力コストおよび償却費の増加により減益を見込む。



2-7. セグメント別実績と予想のまとめ(売上高)

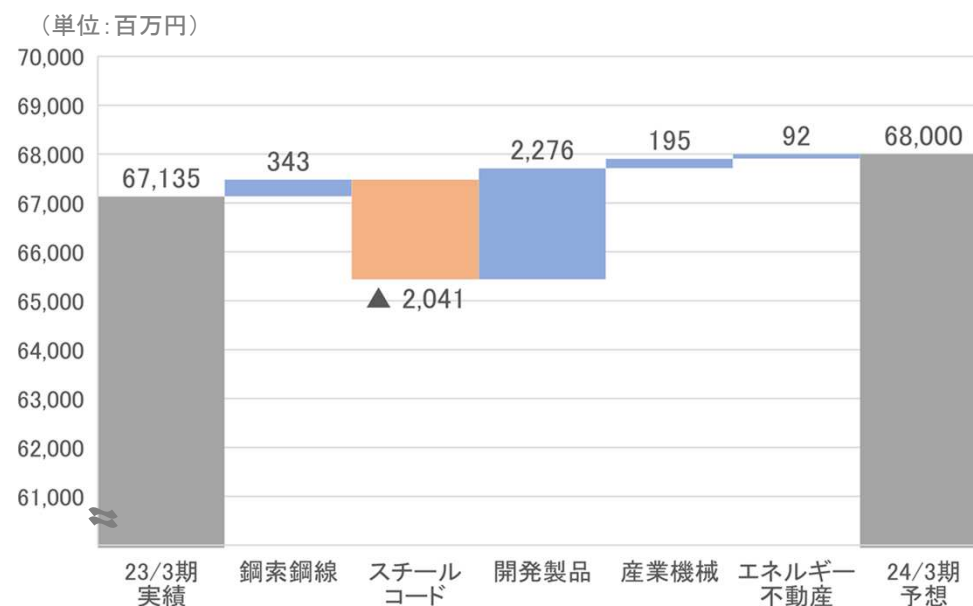
実績

- エネルギー・諸資材価格の転嫁により鋼索鋼線製品およびスチールコード製品を中心に増収。



予想

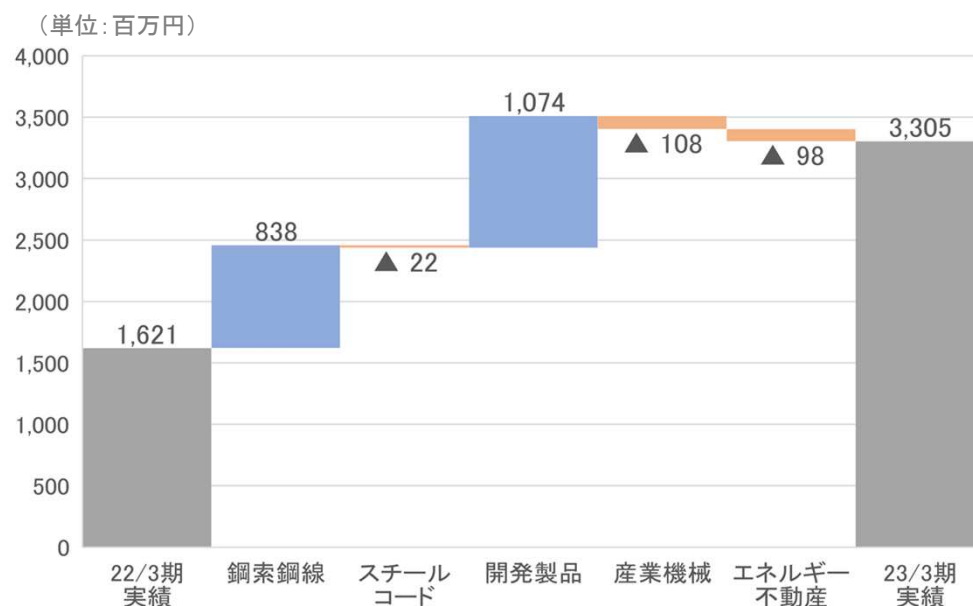
- 開発製品関連では、主にCFCCの新規案件獲得により増収を見込む。
- スチールコードは米国等の景気減速影響により減収を見込む。



2-7. セグメント別実績と予想のまとめ(営業利益)

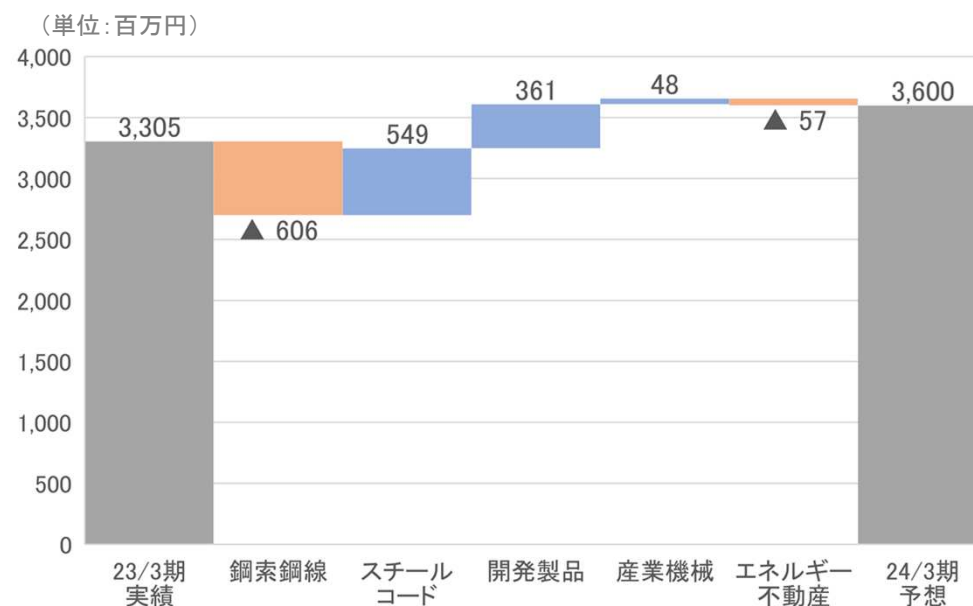
実績

- 開発製品は、CFCCおよび海外防災の売上増加により増益。
- 鋼索鋼線事業は、エネルギー・諸資材価格の転嫁により増益。



予想

- スチールコードは、採算性改善を見込む。
- 開発製品は、CFCC拡販影響を見込む。
- 鋼索鋼線事業は販売ミックス等の影響により減益を見込む。



1. 23年3月期決算・24年3月期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

3-1. 中期経営計画 TRX135の概要(基本コンセプト)

TRX135 = Tokyo Rope Trans(X-)formation at 135th
(創業135年目の改革)

【五つの基本方針】

1. 収益力の再構築
2. 経営資源投入の選択と集中による全事業の黒字化
3. 次期成長を見据えた基盤づくり
4. 風土改革に繋げる内部統制の再構築と積極活用
5. 財務基盤強化

3-1. 中期経営計画 TRX135の概要(中長期ビジョンとの位置づけ)

★ 経営方針・ビジョン

- 安全・安心な社会資本の整備への貢献は当社の使命であり責務である。
- 事業への取り組みを拡大することで、国際社会が求める社会・環境の持続的発展へ寄与。もって、企業価値の向上に繋げる。

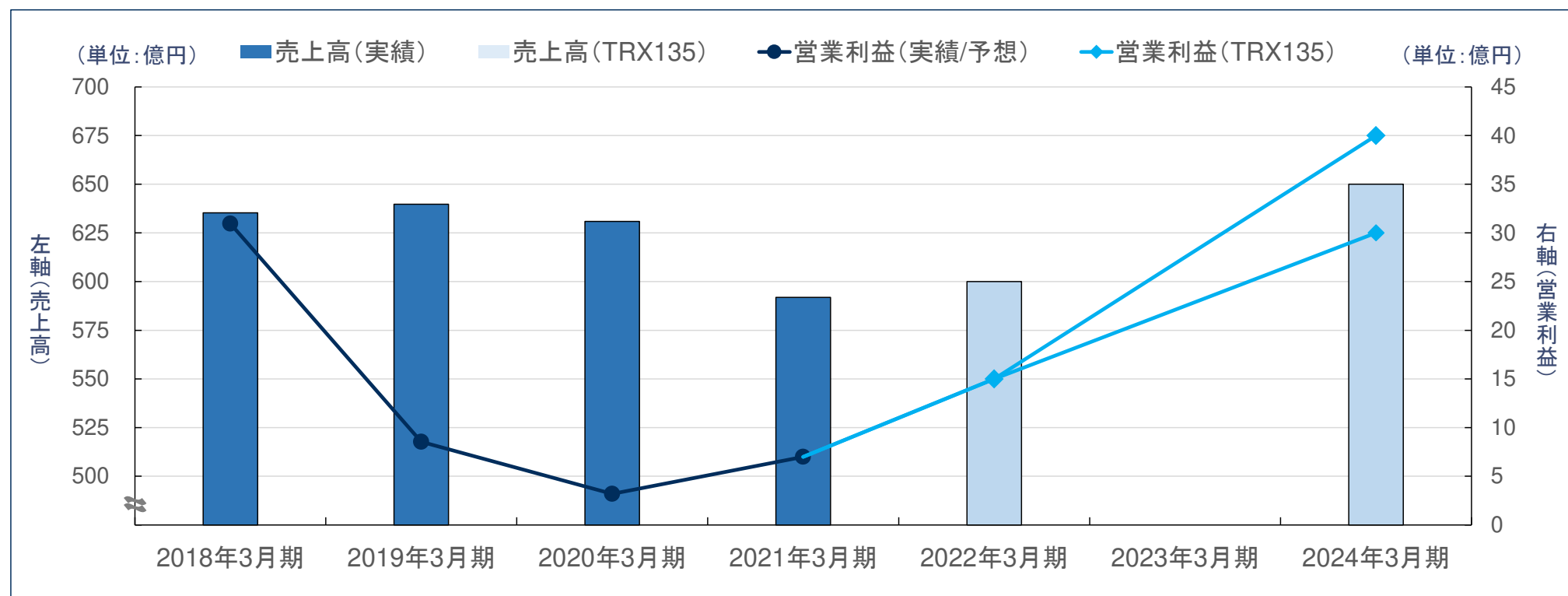
★ 新中計TRX135の位置づけ

- 近年の事業環境悪化から低迷した業績を、早期に安定的収益水準へ回復。
- 更にその先の発展的成長のための基盤固めの期間。

当社の強みであるトータル・ケーブル・テクノロジーで創造的発展へ

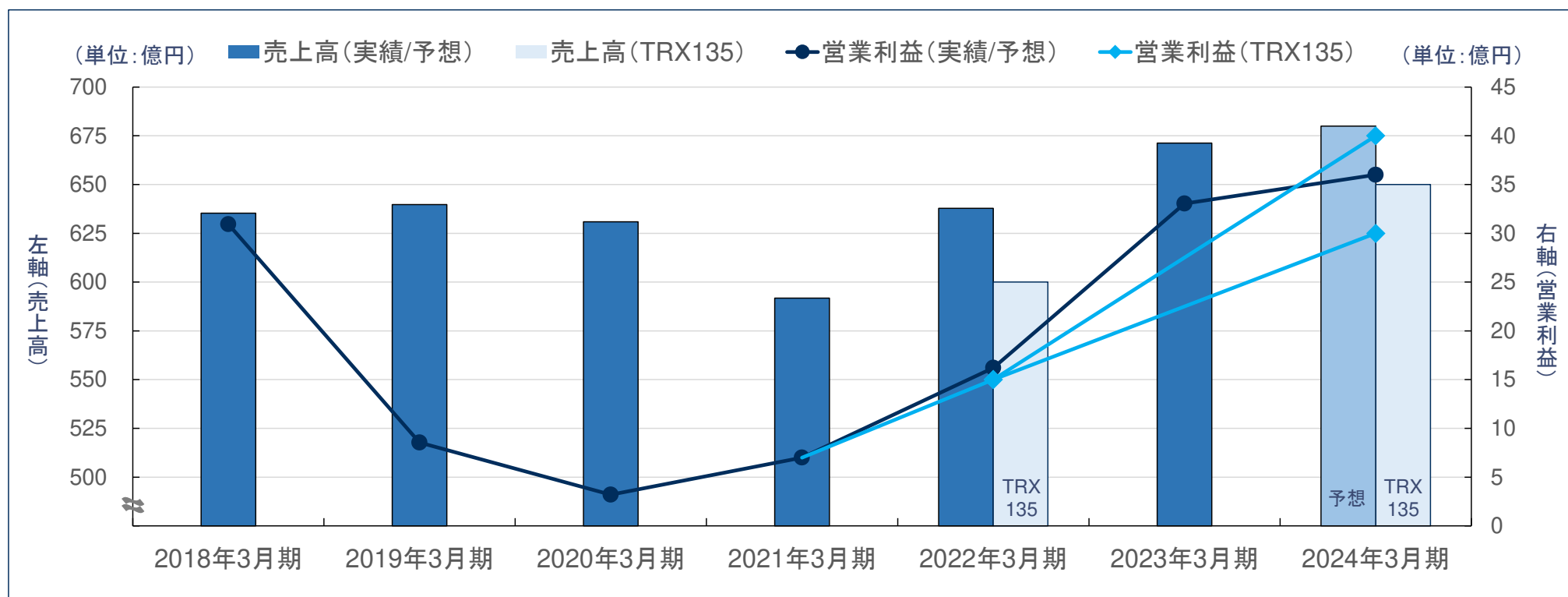
3-1. 中期経営計画 TRX135の概要(連結数値目標)

TRX135の重点課題は収益力の回復、
18年3月期を超える営業利益(30～40億円)を中計最終年度(24年3月期)に目指す。



3-1. 中期経営計画 TRX135と連結数値(実績・予想)の比較

中計最終年度(24年3月期)の営業利益目標の最低値(30億円)は前倒しで達成も、未達の事業もあり、最終年度でTRX135の重点課題(収益力の回復)を完遂する。



3-1. 中期経営計画TRX135の進捗確認総括(1/3): 定量面(連結)

	22年3月期 実績	23年3月期 実績	24年3月期	
			中計TRX135	当期予想(*1)
売上高	637億円	671億円	650億円	680億円
営業利益	16億円	33億円	30～40億円	36億円
EBITDA	30億円	59億円	53～63億円	59億円
ROE	5.4%	13.4%	8.0%以上	8.0%
D/Eレシオ	0.98	0.83	1.0未満	0.65
EPS	81.0円/株	234.8円/株	130円/株以上	167.6円/株
総還元性向	24.7%	20.6%	30%以上	—

*1) 24年3月期の予想では、為替の前提を130円/USDとし、法人税等については将来収益の増減を勘案せず実効税率ベースで試算しております。

3-1. 中期経営計画TRX135の進捗確認総括(2/3): 定量面(セグメント別)

	22年3月期 実績	23年3月期 実績	24年3月期	
			中計TRX135(*1)	当期予想
売上高	637億円	671億円	650億円	680億円
鋼索鋼線関連事業	252億円	271億円	240億円	275億円
スチールコード関連事業	86億円	93億円	100億円	73億円
開発製品関連事業	189億円	191億円	210億円	214億円
産業機械関連事業	42億円	40億円	40億円	42億円
エネルギー不動産関連事業	67億円	74億円	60億円	75億円
営業利益	16億円	33億円	35億円	36億円
鋼索鋼線関連事業	11億円	20億円	11億円	14億円
スチールコード関連事業	▲8億円	▲8億円	1億円	▲3億円
開発製品関連事業	2億円	12億円	15億円	16億円
産業機械関連事業	4億円	3億円	3億円	4億円
エネルギー不動産関連事業	6億円	5億円	5億円	4億円

*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-1. 中期経営計画TRX135の進捗確認総括(3/3): 定性面

1. 収益力の再構築

- 連結全体としては達成見込み。

2. 経営資源投入の選択と集中による全事業の黒字化

- スチールコード事業は経営環境の変化もあり通期黒字化は一年遅れとなる見込みも、他事業は黒字化達成見込み。

3. 次期成長を見据えた基盤づくり

- 既存事業の収益力再構築は概ね完了しつつあるので、今後策定予定の次期中期計画において、各事業の成長戦略を打ち出していく。

4. 風土改革に繋げる内部統制の再構築と積極活用

- 本社移転等の職場環境整備や健康経営等に注力し、社員のエンゲージメント向上を推進。サステナビリティ委員会を立ち上げ、SDGs展開を加速化。

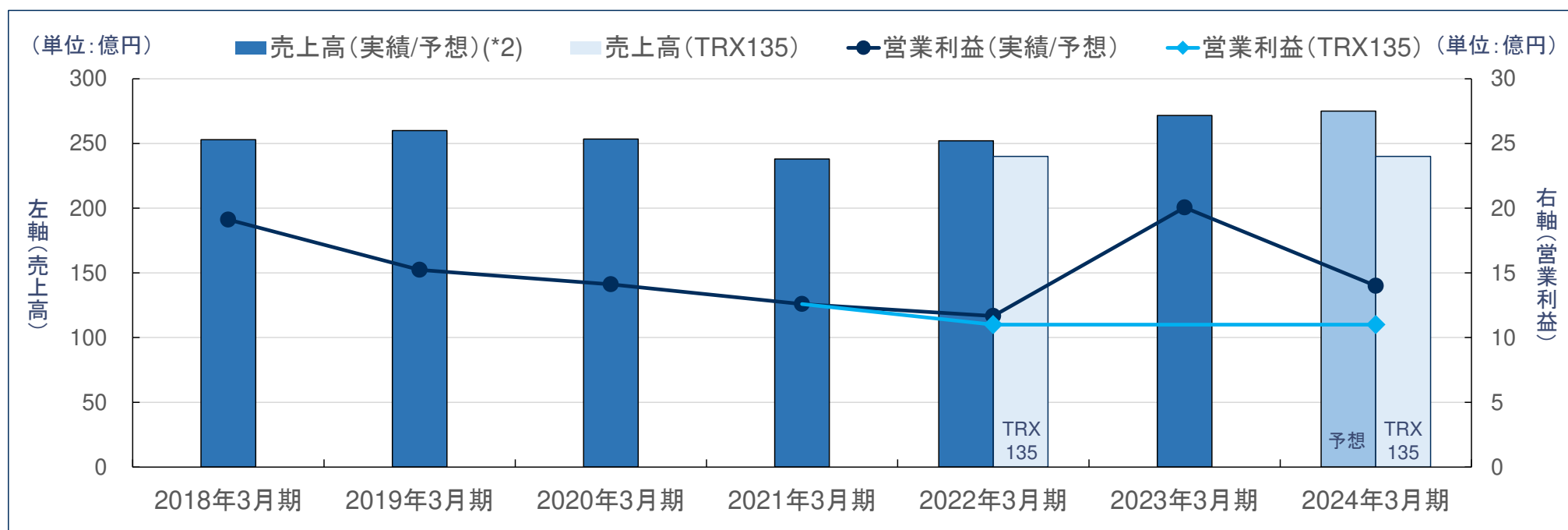
5. 財務基盤強化

- D/Eレシオは最終年度目標1.0未満を前倒しで達成した。

3-2. 事業別進捗状況～鋼索鋼線関連事業(1/2)

★ 中計の重点課題：収益力・競争力の再構築

★ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上240億円・営業利益11億円^(※1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

*2) 平仄確保の観点から、実績の売上は新会計基準を適用した修正値としている

3-2. 事業別進捗状況～鋼索鋼線関連事業(2/2)

★ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
品質の向上と適正価格への是正	22年5月に公表した値上げについて、各ユーザーへの交渉が完了。引き続き物価水準を踏まえ適正利潤の確保に努める。
ターゲットを絞った海外市場へのワイヤロープ拡販	- アジア、北米向けロープの拡販進む。 - エレベーターロープの既存顧客以外への拡販を推進中。
洋上風力発電市場への積極的な取り組み	- 浮体式洋上風力発電設備実海域試験に係留ロープを納入。 - 躯体敷設関連工事用ロープ(玉掛索等)を受注。 - 拠点港湾用や電設用ロープの受注獲得を目指し活動中。



写真) 大型船舶係留索

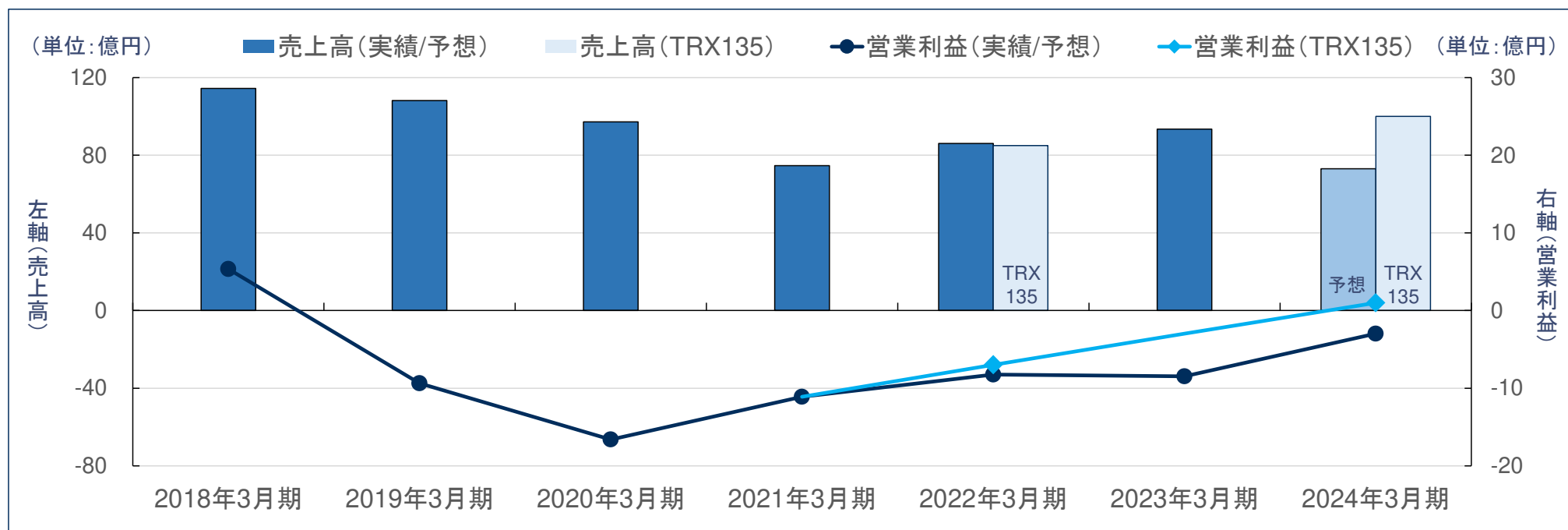


写真) 洋上風力400tf級係留索 破断試験の様子

3-2. 事業別進捗状況～スチールコード関連事業(1/2)

★ 中計の重点課題：セグメント黒字化

★ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上100億円・営業利益1億円^(※1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-2. 事業別進捗状況～スチールコード関連事業(2/2)

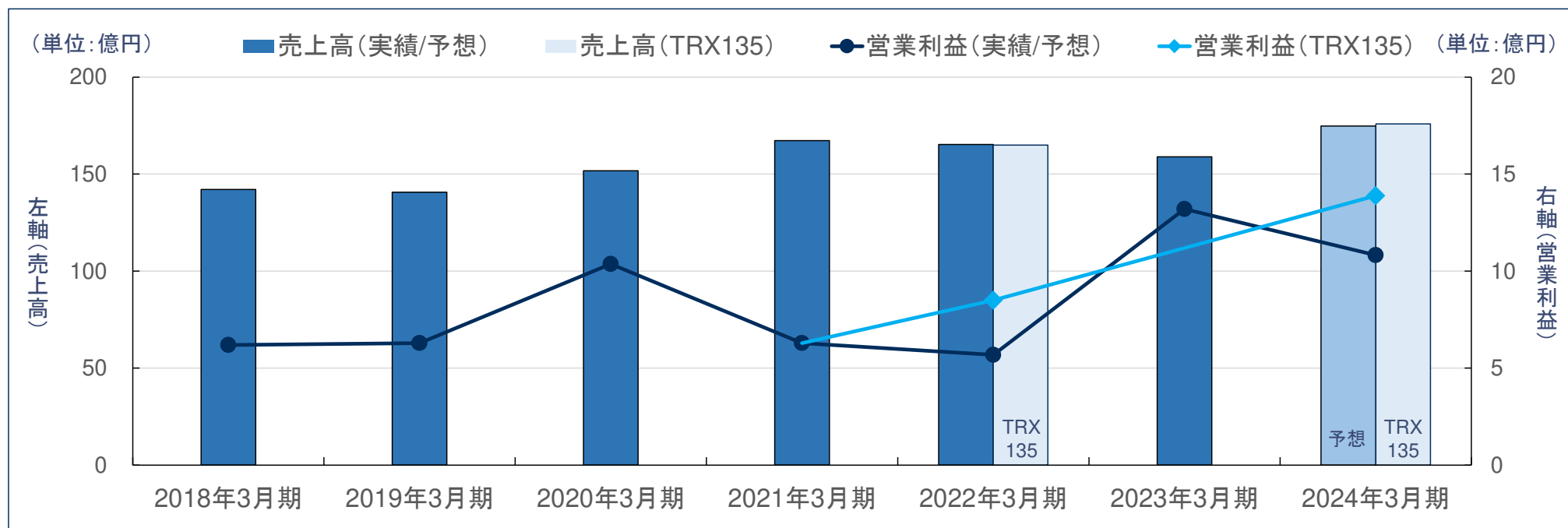
★ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
原材料価格と製品価格との適正スプレッドの確保	・ <u>未達</u>(これにより中計最終年度での通期黒字化も厳しいと予想) ・ 価格転嫁を進めるも、想定を上回る電力単価の上昇により再生産可能な適正スプレッドを確保するまでには至らず。 ・ 適正スプレッドの確保に向けた価格転嫁を継続し、中計から1年遅れの、25年3月期での通期黒字を目指す。
新規導入設備による生産性の向上	・ <u>当初計画よりも遅延して完了</u>(新規導入設備の本格稼働開始がずれ込んだ結果、23年3月期の発現効果は限定的) ・ 24年3月期は販売量減により発現効果は当初想定よりも限定的になると予想するものの、新設備による生産性改善効果は通期で寄与する。
日本製鉄(株)殿とのコラボレーション強化	・ 物流費削減を目的とした釜石港の活用を拡大、操業指標の更なる改善に向けた技術交流を継続。

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちエンジニアリング製品)(1/3)

★ 中計の重点課題：差別化による競争優位性維持

★ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上176億円・営業利益14億円^(※1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちエンジニアリング製品)(2/3)

★ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
国土強靱化政策のもと、各市場ニーズを踏まえた防災製品開発・販売	新製品を順次投入。 (例: GF式鉄筋挿入工法、TSガードフェンス等)
地域企業との連携促進等、地域特性を踏まえた国内外の販売強化	地産地消を踏まえた国内体制の再強化。 (工事子会社(北海道)の連結化、北陸・九州等における拠点強化等)
ターゲットの選択と集中による海外防災事業の黒字化	- 各国の経営環境に鑑み事業撤退を実施。 事業譲渡: カザフスタン法人 清算着手: ロシア法人(モスクワ)およびキルギス法人 - 重点注力のフィリピンにおいて複数の大型案件を受注済。 24年3月期中の海外防災事業の黒字化に向け案件積上げ中。

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちエンジニアリング製品)(3/3)

各市場ニーズを踏まえた防災製品の開発・販売の推進

国内:GF式鉄筋挿入工法



- 通常の鉄筋挿入工とは異なり、アンカー頭部をロープで連結することで斜面の崩壊防止効果を高めた
- 23年4月より全国展開し拡販を見込む

写真)表層崩壊対応工事(GF式鉄筋挿入工法)

フィリピン:落石防護工



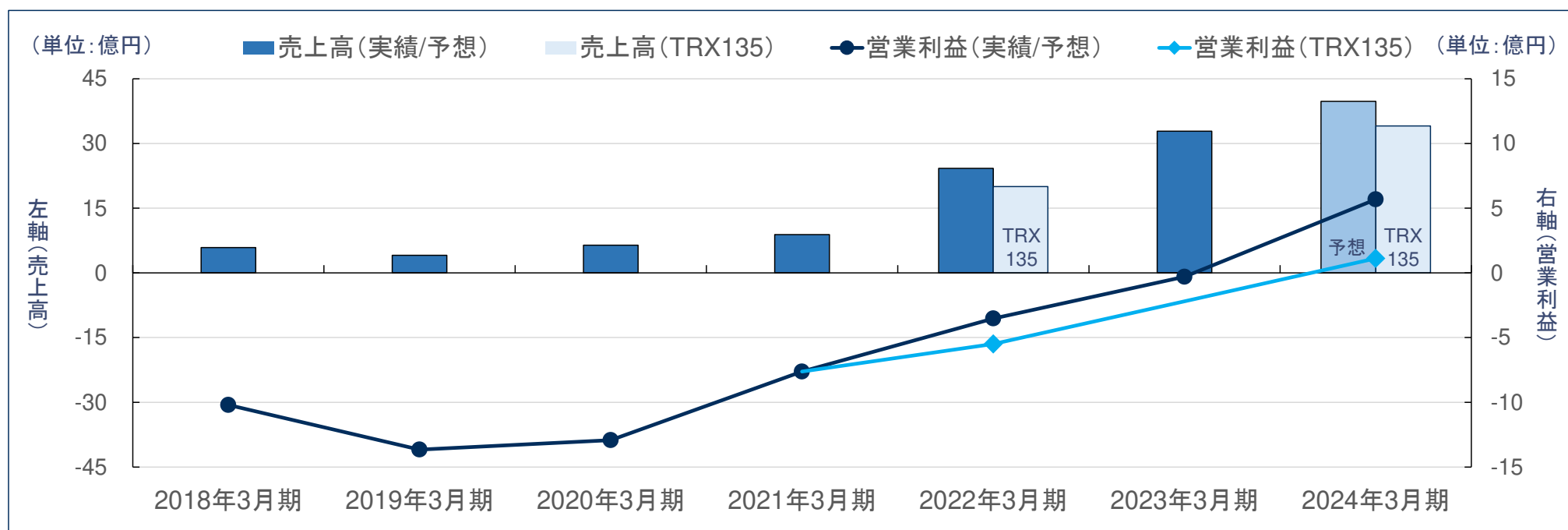
- 市場開拓を進めるフィリピンにおいて、落石防護工の大型案件を受注した
- フィリピン[Region8地域]受注総額 約3.1億円

写真)フィリピンにおける落石防護工案件の一部区間

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちCFCC製品)(1/3)

★ 中計の重点課題：CFCC事業単独での黒字化

★ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上34億円・営業利益1億円^(※1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちCFCC製品)(2/3)

★ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
時間軸を踏まえた遅滞なき事業性の検証と戦略見直し	CFCC事業は24年3月期に営業黒字化を達成見込み。
市場の選択と集中	- 土木分野では内外で案件が着実に積みあがっている。 (例: 米国ノースカロライナ州のHarkers Island Bridge等) - 引き続き土木分野を中心に開拓を強化。
土木建築製品における受注済北米案件の確実な完遂	- 北米土木の大型案件向けは施工遅延の影響があるも、約6割を完納した。(生産・納入は25年3月期前半まで継続予定) - 北米製造子会社は3期連続で黒字確保の見通し。
ACFRの架線容易性/安全性による競合製品との差別化	当社が架線指導を行い約480kmの無事故架線実績を蓄積。ACFRの架線容易性を広め、競合製品との差別化を展開。

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちCFCC製品)(3/3)

協業者との地道な設計織込活動が奏功

国内: 戦略バルク港



- 徳山下松港の棧橋床版にCFCCが採用された
- メンテナンスフリーが評価され、釧路港、小名浜港に次いで採用された

図) 徳山下松港下松東岸壁(ケーブサイズ入港)イメージ図
出所) 山口県ウェブサイト「徳山下松港港湾計画の改訂について」

国外: 北米橋梁



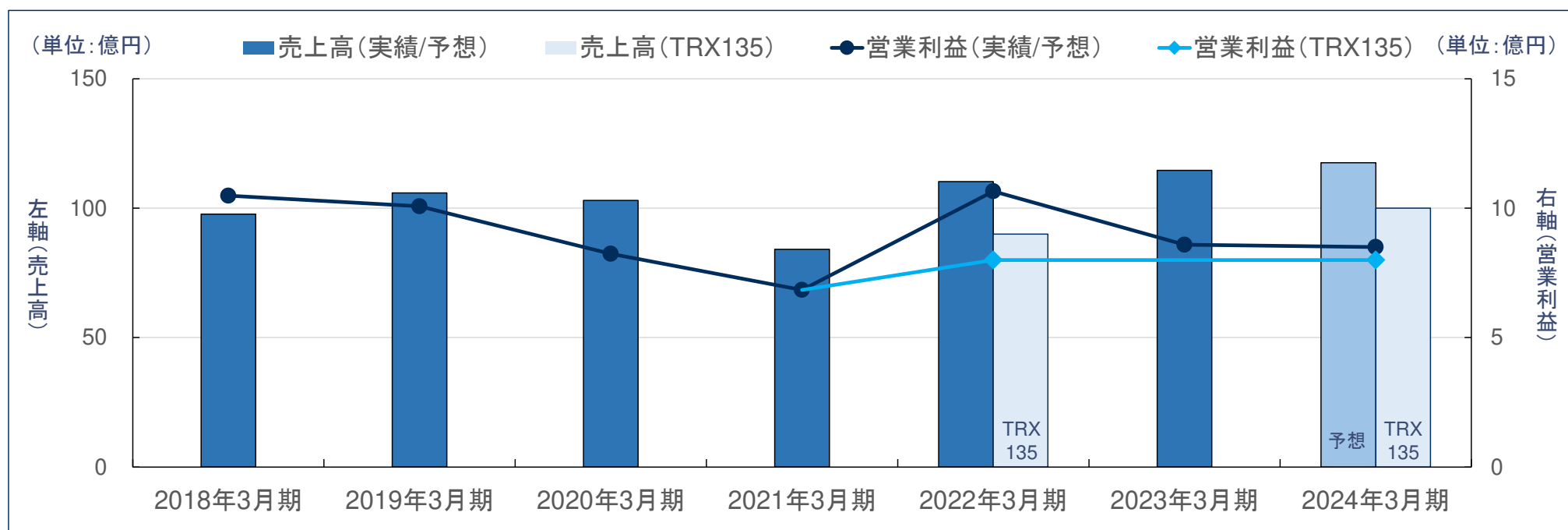
- 米国ノースカロライナ州のHarkers Island Bridgeの掛替工事(2025年秋の完成目標)にCFCCが採用された
- 桁と橋脚パイルのPC緊張材およびパイルの補強筋として受注総額 約5.4億円

写真) Harkers Island Bridge

3-2. 事業別進捗状況～産業機械関連・エネルギー不動産関連事業(1/2)

★ 中計の重点課題：多彩な独自製品の更なる強化

★ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上100億円・営業利益8億円^(*)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-2. 事業別進捗状況～産業機械関連・エネルギー不動産関連事業(2/2)

★ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
自社開発した超硬新素材の多様な展開	- 高耐久新素材(SCPT合金)については、自動車産業を中心とするBtoB分野で徐々に浸透している。 - 刃物用新素材(KS111)は、「硬さ・靱性・耐食性」の特性をもち、福田刃物工業(株)殿の新ブランドの包丁刀身に採用され好評。
計量・包装分野における自動化・省人化ニーズの捕捉	23年3月期は部品調達遅れの影響あり。 - 自動化ニーズに対応した大型案件を受注し、24年3月期は収益拡大を見込む。



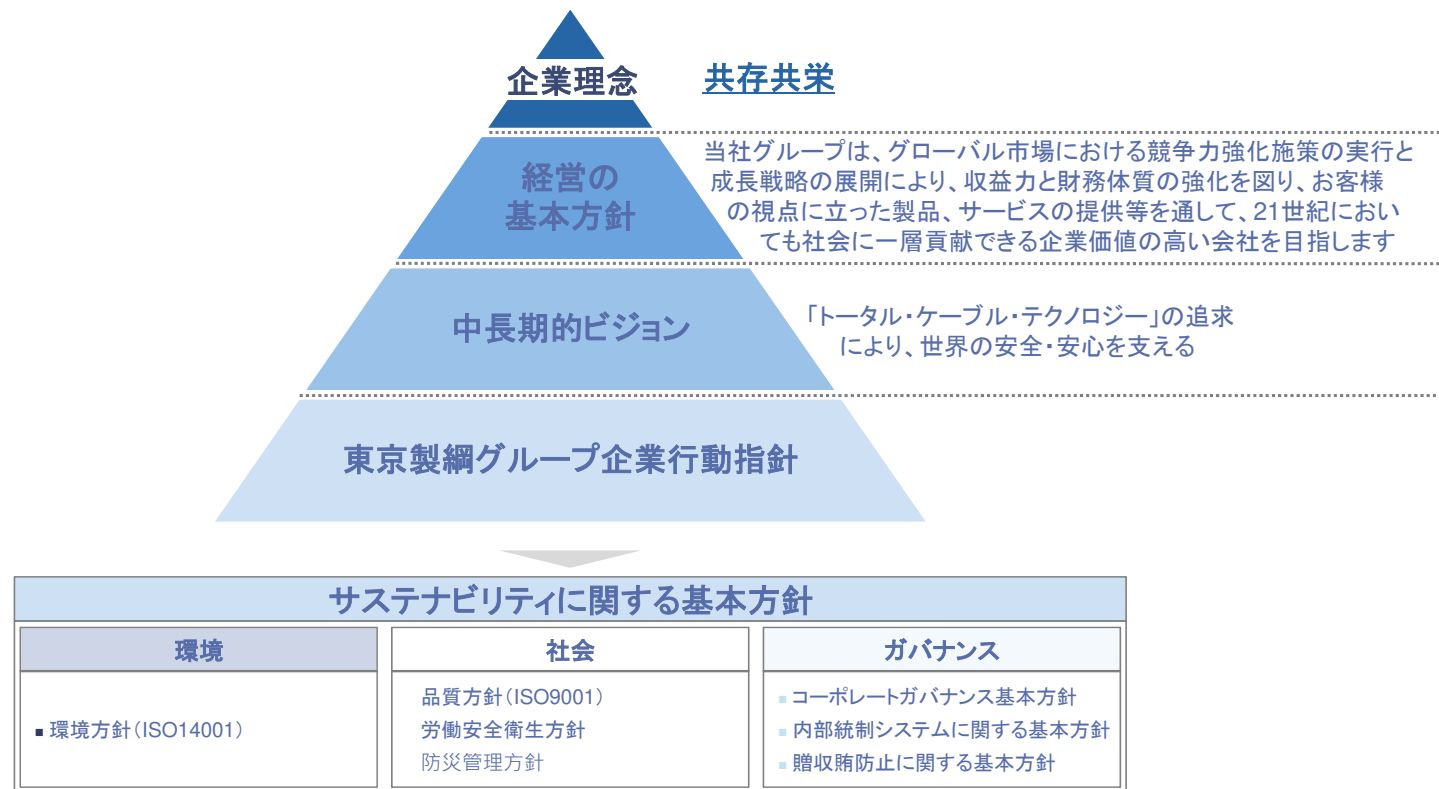
写真) 超硬包丁「KISEKI:」© 2023年3月31日より一般販売開始



写真) 包装機械の例

3-3. SDGs・ESGの取組み～理念体系およびサステナビリティ基本方針

SDGs・ESGに資する取組みをより一層推進すべく、サステナビリティに関する基本方針を整理・体系化し、「東京製綱グループの5つのマテリアリティ(重要課題)」を策定いたしました。



3-3. SDGs・ESGの取組み～5つのマテリアリティ:重要課題(1/2)

マテリアリティ(重要課題)	マテリアリティの構成要素	リスク	機会	特定理由および持続的な企業価値向上への繋がり	主な取組み
自然環境と共存する -持続可能な環境の実現-      	気候変動対策の推進	●	●	- 人口の増加や経済の発展に伴い、森林破壊、水災害の頻発など、地球環境は大きな危機に直面しております。中でも、気候変動問題は深刻さを増しており、多くの温室効果ガス排出を伴う鉄を中心とする金属製品製造業の当社にとって、カーボンニュートラルの実現に取り組むことが不可欠となっております。 - 環境への対応は社会問題の解決に繋がり、企業価値を維持・向上するための重要な取組みであると考えており、温室効果ガス排出の削減による気候変動の緩和、環境リスクマネジメントの徹底、廃棄物削減、省エネルギー、環境配慮型製品の設計等を進め、自然環境との調和および地域社会との共生を目指します。	- 主要製造拠点における再エネ発電の検討・活用 - ISO14001に基づく環境リスクマネジメントの徹底を通じた環境保全 - 副資材・スクラップの3Rの徹底 - GHG排出量の削減目標策定およびGX分科会主導による削減活動推進
	環境リスクマネジメントの徹底	●			
	循環型社会/リサイクルの実現	●	●		
お客様・お取引先・地域の皆様と共に栄える -社会ニーズに対する高度な製品・ソリューションの提供-     	製品・サービスの品質保証と安定供給	●	●	1887年に東洋初のマニラ麻ロープの製造会社として創業した当社は、現在では保有する商品群の多様性と技術的な奥行きを合わせもつ「ケーブルの総合企業」へと成長し、「トータル・ケーブル・テクノロジー」を追求しております。今後も品質理念に掲げる「品質第一主義」を徹底の上、お客様・お取引先・地域の皆様の安全で安心な暮らしを支えてまいります。 - また、技術力・競争力強化施策の実行と成長戦略の展開による、収益力と財務体質の強化の実現にも注力しております。具体的には、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の活用や、お取引先および大学等のステークホルダーとの協働・対話によって、高機能・高付加価値商品・サービスを提供し、企業価値の向上を目指しております。	- 洋上風力発電など再エネ・省エネ・ライフサイクルコスト低減に資する製品の研究開発推進 - インフラを支える防災施設、橋梁ケーブルの健全性診断技術、「スマートケーブル」の研究開発推進 - アフターサービスまで一貫した、「トータル」サービスの提供 - 産学官連携・お取引先等との共同研究開発推進 - BCP体制の強化 - 工場サステナブル分科会の始動 - 工場設備からのデータ収集と利活用を含むDXの推進
	顧客・市場ニーズへの対応		●		
	インフラ老朽化や自然災害等の社会・地域課題の解決		●		
	デジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進		●		
	ステークホルダーとの協働		●		

3-3. SDGs・ESGの取組み～5つのマテリアリティ: 重要課題(2/2)

マテリアリティ(重要課題)	マテリアリティの構成要素	リスク	機会	特定理由および持続的な企業価値向上への繋がり	主な取組み
従業員と共に栄える -従業員の健康確保と働きがいのある職場環境づくり-     	人材の採用・育成		●	■ 当社の持続的な成長のためには、従業員が心身の健康を確保し、多様な考え方や価値観を認め合い、安全・安心に働くことができる職場環境を構築していくことが重要であると考えております。また、事業活動がグローバル化し変化が激しい時代の中、従業員は価値を生み出す最も大切な原動力であるという考えのもと、その主体的で多様なキャリア形成とスキルアップに対しさまざまな支援を講じ、一人ひとりの自己実現を通じた企業価値の向上に引き続き努めてまいります。	■ 階層別研修や業務に応じたセミナーや講習会の実施 ■ 労働災害撲滅に向けた啓発活動 ■ 職種別のキャリアプランの構築と教育 ■ 女性管理職比率の向上 ■ 高齢者・障がい者雇用の増員 ■ 健康経営優良法人認定取得、健康経営の推進
	ダイバーシティ&インクルージョンの尊重		●		
	健康経営の推進、安全衛生の確保	●	●		
すべての人と共存する -人権の尊重-  	人権の尊重・不当な差別の排除	●	●	■ 人権を尊重する経営を行うことは「誰一人取り残さない」SDGsの理念を達成するための不可欠な要素であると考えており、自社として直面する課題やリスクに対して創意工夫や改善を図りながら、主体的に取り組むべきであると考えております。また、人権の尊重は、顧客との信頼関係の強化、企業価値向上のための重要な要素であると認識しており、社会の一員として人権を尊重する事業活動を進め、持続可能な社会の実現に関与していきたいと考えております。	■ 従業員に対する人権侵害防止、ハラスメント撲滅の啓発活動 ■ アンケートを通じた職場環境の状況調査および検出リスクへの対応 ■ 全社的な人権方針やDD体制の構築
共に栄えるために義(規律・規範・責任)に従う -ガバナンス・リスク管理の徹底-  	コーポレートガバナンスの強化・企業倫理の徹底	●		■ 健全で透明性の高いガバナンス体制をベースとしながら、風通しの良い組織風土の醸成に取り組むことにより、当社内部統制システムの自律的な運用を実現し、企業不祥事および企業価値の棄損を防止いたします。 ■ また、自然災害や不正・法令違反、贈収賄を含むあらゆる腐敗、情報漏洩など直面する可能性のあるリスクを定期的に分析・評価し適切に管理するよう努めております。 ■ 合わせて、サプライチェーン全体で社会と環境に配慮した責任ある調達活動を進める事により、持続可能な社会の実現と、社会的価値の創造に貢献してまいります。	■ 監督と執行の体制的分離(過半を超える社外取締役、および各種会則の改定) ■ 取締役会実効性評価の定期実施 ■ 東京製綱グループ企業行動指針の社内周知 ■ 贈収賄防止に関する基本方針の策定 ■ ピープルサーベイの結果に対応する改善策の推進 ■ 内部通報制度の周知および運用強化 ■ ITネットワークのセキュリティ強化 ■ リスク管理に関する情報の整流化 ■ サプライチェーンマネジメントの強化
	リスク・マネジメント体制の強化	●			
	責任ある調達の推進	●			

3-4. 全社施策の進捗状況～ 財務・配当政策

★ 財務政策

- コーポレートガバナンスの観点から、政策保有株式の見直し・縮減を継続する
- 中計目標は既に達成も、有利子負債の圧縮と財務基盤の強化を継続する

★ 株主還元・配当政策

- 安定配当を第一にしつつも、収益力の強化により、着実な増配を目指す
(23年3月期の配当は、15円/株増配し、35円/株)
- 自己株買いなども行い、総還元性向:30%以上の実現を引き続き目指す

23年3月期の
配当性向
14.9%

+

23年3月期の
自己株取得
2.1億円

=

23年3月期の
総還元性向
20.6%

(ご注意)

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込み、その他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。